
お願い事

鬼羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お願い事

【Nコード】

N9571U

【作者名】

鬼羅

【あらすじ】

短冊に願い事を書く4人。松陽と出会い、仲間の大切さを知った銀時はどんな願い事を書いたのか？

(前書き)

鬼羅です。

久しぶりの短編です。

時季は過ぎてしまいました。が宜しく願います。

個人的にはお登勢が陸奥の誕生日もやりたいなと思っています。
いつになるかわかりませんがね。

高杉：「銀時！！短冊に願いごと書こつぜー！！」

銀時：「……………は？願い事？なんで？？」

桂：「今日は七夕だからだ。」

銀時：「七夕？」

桂：「ああ、年に一度、7月7日という今日の日に、

願い事をひとつすると織姫殿と彦星殿が叶えてくれるんだ。」

銀時：「よくわかんないから今度先生に聞くよ。」

桂：「ま、とにかくだ、先生のところへ短冊を貰いに行くぞー！！」

銀時の手を引っ張りながら桂は松陽の部屋へやってきた。

桂：「先生！！短冊を三枚くださいー！！」

松陽：「おやおや、今日は元気がいいですね。」

せつかくです、ここで書いて行きませんか？？」

高杉：「いいんですか？」

松陽：「ええ、竹もこの部屋にあることですし。」

高杉：「それじゃあ…失礼します。」

そう言つて部屋に入り、短冊を貰つた三人、

桂と高杉はすぐに書き終えた。

2人は銀時が書けるまで松陽の部屋で待つと言つていたが、

銀時は一人で考えたいと、それを断つた。

今は部屋には銀時と松陽しかいない。

松陽：「銀時？どうして2人を追い出しちゃつたんですか？」

銀時：「……………ん。」

松陽の話を無視して、銀時は自分が書いたものを手渡した。

銀時：「先生なら見てもいいよ。」

その場にいるのが恥ずかしいのか、

銀時はすぐに部屋を出てしまった。

松陽：「……………？」

不思議に思いながらも松陽は銀時の書いたものを見た。

松陽：「……ふふ、そういうことですか……。」

松陽は優しいな笑みを浮かべ、まだ部屋の近くにいた

銀時に近づき、小声で言った。

松陽：「銀時は一番の幸せものですね。」

……お願い、絶対叶いますよ。」

ふわふわの頭を撫でながら言うと、

銀時は少し赤くなった顔で返事をし、

外で遊んでいた桂と高杉のもとへ掛けて行った。

松陽：「私も……銀時と同じです……」

己の命が尽きるまであなた達と一緒に……

……少し欲張りですね……。」

そう言って銀時の短冊とともに、自分が書いたものも

竹に吊るした。

高杉：「銀時。願い事、なんて書いたんだ？」

銀時：「んー内緒。」

高杉：「なんだよ！教えてー！！」

銀時：「気が向いたら教えてあげる。」

高杉：「絶対だな？」

銀時：「覚えてたら。」

銀時：（あんなこと恥ずかしくて言えるわけないし…）

— 小太郎や晋助と死ぬまで一緒にいたい —

その願い果たして —

(後書き)

ありがとうございました!!
久しぶりに書くことができ楽しかったです!!
感想宜しくお願いします!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9571u/>

お願い事

2011年10月8日23時12分発行